

動く、繋がる、新たな創造へ

暴力から対話、
競争、対立から共生の社会に向けて

2026年1月10日
船橋邦子

動く・であう・繋がる・変える

川下と川上、NGOとGO、アジア、マイノリティと繋がる
川下の活動

地域で居場所のない困難女性と子どもの支援(NPO)

川上の活動(アドヴォカシー、ロビー活動)

北京JAC(Japan Accountability Caucus)

(世界女性会議ロビイング・ネットワーク)

NPO法人アジア女性資料センター(前・アジアの女たちの会)

欧米中心のフェミニズムからの脱却、
アジアを知ること＝自分、日本を知ること

マジョリティとしての特権の自覚

フェミニストとしての私の旅

序奏

1960代大学闘争(1955 もはや戦後は終わった～)

1967 大学院入学 ベトナム反戦会議

1968 東大闘争 学問とは・研究と何か 近代とは、
戦後民主主義とは

1970 ウーマン・リブ(第Ⅱ波フェミニズム運動)

旅のスタート

1975 国際女性年(第1回世界女性会議メキシコシティ)

1977 アジアの女たちの会(買春ツアー反対運動)

国立女性教育会館(NWEC)創立

1979 日本女性学会(女性学との出会い)

1980 第2回世界女性会議(コペンハーゲン)NGOフォーラム
他のアジア、アフリカ女性との出会い、南北問題



フェミニストとしての私の旅

1982 AWRAN(アジア女性行動研究ネットワーク)

NWEC、和光大学、女性学講座開始

1985 第1回アジア女性会議(フィリピン・ダバオシティ)

ナイロビに向けて アジア女性の集団の声を届ける

1991 韓国性暴力センター訪問 金学順さんからお話

1992 リオ環境・開発会議

第2回アジア女性会議(日本で開催)

「創りだそう女たちのアジアを」14カ国・地域から17名

本会議(NWEC)、地域会議7か所、

アジア女性会議ネットワーク発足

北 京会議に向けてNGOとして「北京行動綱領」の策定に参加

1993 ウィーン人権会議 女性への暴力撤廃宣言

GBV=ジェンダーに基づく暴力)と明記」



フェミニストとしての私の旅

1994年 カイロ人口・開発会議

「女性と健康ネットワーク」統計から生き方へ 優生保護法改定へ

1995年 第4回世界女性会議(北京会議)

歴史上最大規模の国連会議、アジアで初めて。

NGOが最も力を発揮した会議⇒NGOとして日本の声をまとめる

グローバルフェミニズム運動の成果

「北京行動綱領」ジェンダーの主流化

時代背景 ソ連の解体、リベラリズムの力

北京JAC(世界女性会議ロビイングネットワーク)の発足

現在、JNNC(女性差別撤廃条約日本NGOネットワーク)

OP・CEDAW(女性差別撤廃条約実現アクション)

クオータ制を推進する会(Qの会)参加団体

私たちはどんな時代を生きているのか 2026年幕開けに考えること

トランプ政権のベネズエラ侵攻

1月4日 アメリカ大使館前抗議行動

戦争中毒アメリカが軍事主義を抜け出せない本当の理由



核の脅威(隠蔽されているという恐怖)

沖縄キャンプヘーグ核兵器事故 [1967]

<https://youtu.be/xu9rTPclRz8?si=473lSget4YTrto8Z>

沖縄ヘーグキャンプ内核兵器事故現場



戦争中毒の国、帝国主義国家アメリカ

◆ ベネズエラへの攻撃

石油→帝国が最も求める資源、
親米国（アラブ首長国連邦、カナダ、サウジアラビア）
暴力的支配（イラク、クウェート、リビア）

『戦争中毒アメリカが軍事主義を脱け出せないない本当の理由』

アンドレア・ジョエル

◆ 帝国主義の定義

権力と支配を拡大する国家の政策と実践
経済的、政治的支配（資源や市場、労働力）+領土獲得
軍事主義→企業（防衛産業）による支配

世界の軍事費(ストックホルム国際平和研究所)

◆ 世界の軍事費

2兆7180億ドル(約390兆円)

戦後最大、9、4%増(2024)

軍事力ランク(グローバル・ファイアー・パワー)2025

アメリカ、ロシア、中国、インド、韓国、イタリア、フランス
日本

防衛産業 アメリカ世界の4割 中国

アメリカ 支出の4割軍事費(防衛産業が政府を主導)

世界の軍事産業、上位25社のうちアメリカ12社



沖縄の軍事化

◆ キャンプヘーグで核兵器事故フィールドから

長崎放送記者被爆者インタビュー

1967事故 病院も設置

キャンプヘーグ 1977返還 南西諸島自衛隊軍事要塞化

本島にミサイル弾薬庫

◆ 1972 佐藤栄作沖縄返還密約<有事に際しての核持ち込み 米公文書に対する声明 2007

◆ ノーモア沖縄戦いのちどう宝の会

<https://nomore-okinawasen.org/>

戦争を止めよう西日本・沖縄ネットワーク



ハーグ平和宮「国際女性平和会議」500名参加 入口にズットナー像建立

◆ ヘレン・フォン・ズットナー(1843～1914)

平和主義の先駆者

オーストラリアの作家、平和活動家

「武器を捨てよ！」(1889年)を通じて、戦争の廃絶を訴える

戦争を根本的に解決するためには、軍備による妥協ではなく、戦争そのものをなくすことが必要。

平和を実現するためには、国際的な協力と理解が不可欠とし、平和運動に積極的に参加。

ノーベル平和賞を受賞した最初の女性

オランダ・ハーグ ズットナー像建立 (2025・12・10)



武器を捨てよーズットナー像建立

武器を捨てよ 空の野蛮化
女性初ノーベル平和賞 ズットナー像 世界5箇所 建立!!

世界地図

オランダ ハーグ

オーストリア ウィーン

韓国 板門店

広島

長崎

ベルタ・フォン・ズットナー

イングリッド・ロレマ

人間自然科学研究所 <https://www.hns.gr.jp/>

多田諤子反権力人権賞 重信メイさん受賞

◆ 重信メイさん

衛星テレビ「アルジャジーラ」のオンライン誌

「ジャーナリズム・レビュー」英語版編集統括。

ガザ地区のイスラエルによるジェノサイドと指摘する

国際人権NGOの見解を踏まえ、欧米メディアの偏向報道問題の検証が評価

「パレスティナ人記者に捧げる」

『毎日新聞』10・8

cf. 重信房子『パレスティナ人解放闘争史』作品社、2024

初の女性首相が体現する家父長制

◆ 遠のく「平等・開発・平和」

過去の戦争が終わっていない人たちが存在するなかで加害者にも被害者にもなる戦争への道を進み始めている

選択的夫婦別姓反対

ワーク・ライフ・バランス無視

積極的財政→インフレ助長(格差拡大)

天井無き防衛費の増大

国力増加→防衛産業の強化

武器輸出(殺傷能力ある武器も含む)

非核三原則の見直し(核持ち込まず)

台湾有事発言 日中関係の悪化

映画「女性の休日」(アイスランド)から学ぶ

◆ アイスランド

人口40万 1907 女性の権利協会

1908 女性政党、女性リスト

◆ G.G.I(ジェンダーギャップ指数)16年間1位

1975年10月24日、90%の女性がストライキ

ジェンダー格差の問題

→法律など制度変革

→政治の問題

2015ジェンダー予算

2018男女同一賃金法(25名以上の企業)

2020 全てに適用他

女性のエンパワメントのためのリカレント教育



◆ 大統領、首相、
3つの政党の党首→女性



第7代アイスランド大統領
ハッラ・トーマスドッティル



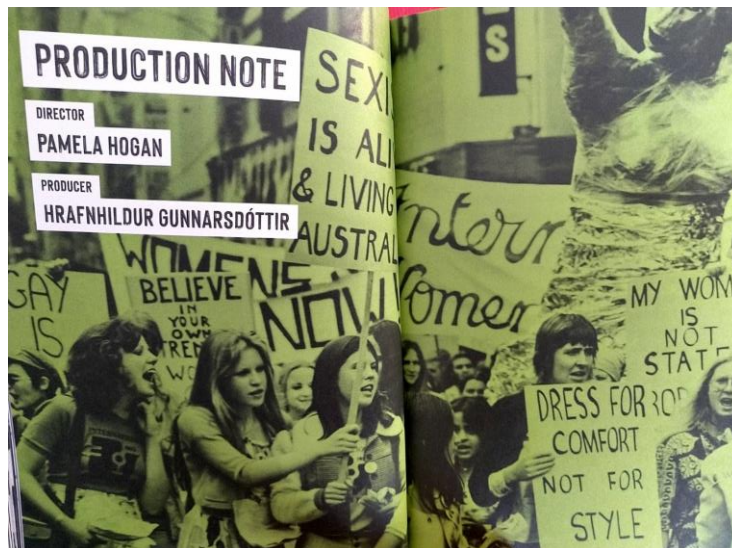
首相
クリストウルン・フロスタ
ドッティル

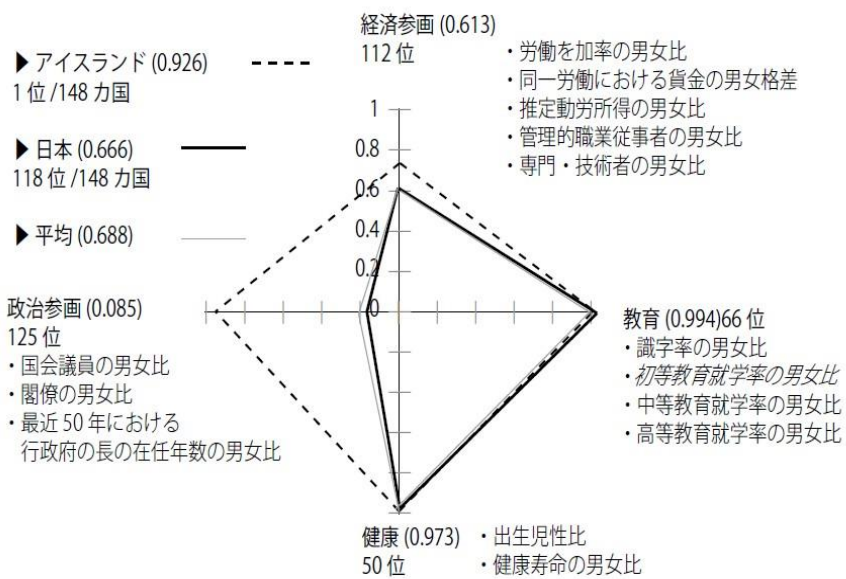


「進め 女性たち」

自由は今 目の前にある
それはもっと早く
訪れるかもしれない
今 女性たちが連帯し
自由の旗を掲げている
その時が来たのだ
さあ 皆で手を携え
この大義を固く守り続けよう
後戻りしようとする者もいれば
立ち止まる者もいるが
決して諦めない

だけど本当にやるの？
望むの？ できるの？
できる 必ずやる！
だけど本当にやるの？
望むの？ できるの？
そう 私は本当にやる
そう 私は本当にやる
できる 必ずやる！





GGI 値 / 順位の表

評価分野	アイスランド		日本		平均 GGI 値
経済	0.798	7	0.613	112	0.61
教育	0.99	81	0.994	66	0.951
健康	0.96	125	0.973	50	0.962
政治	0.954	1	0.085	125	0.229
総合	0.926	1	0.666	118	0.688

〈備考〉

1. 世界経済フォーラム「グローバル・ジェンダー・ギャップ報告書 (2025)」より作成
2. 日本の数値がカウントされていない項目はイタリックで記載
3. 分野別の順位: 経済 (112 位)、教育 (66 位)、健康 (50 位)、政治 (125 位)

北京+30 変わったこと・変わらないこと

◆ 制度面、認識の変化

DV法 95%の国で整備←1995 19か国のみ
女児の就学率、女性の就業率は上昇
クオータ制導入国→**100か国**超える
国会議員の女性の割合→**15.7% (1995に比べて2倍)**
女性への暴力の可視化 (GBV)
マイノリティ女性の運動による女性の多様性の可視化
性別という男女二元論の問題
ジェンダーということばの汎用

◆ 変わらないこと

性別分業という制度 それをもたらす女性の貧困
性の貧困化←構造的差別、女性への暴力 (SNS上での拡大)
バックラッシュ、女性の分断→フェミニズムの分断

日本では性差別は解消が進まないのは？

- ◆ 権力者の政治的意思の欠如→国際基準との乖離
- ◆ 心がけ論で制度変革の取組の欠如
- ◆ 第3号被保険者制度の問題 被扶養者とは 女性の序列化
- ◆ 少子化対策と一体化した男女共同参画政策
 - 日本の特殊合計出生率 1.15
 - 韓国、0.78、スペイン、1.16 イタリア 1.24 (2022)
 - スウェーデン 1.45 (2023) 2010⇒1.98 経済状況の悪化
- ◆ 家族一心同体という家族イデオロギーに基づく家族政策
 - cf. 選択的夫婦別姓
- ◆ カタカナ語の曖昧さ
 - ジェンダー、アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)
 - ジェンダー・アイデンティティ、プレコン

近代家父長制と性差別

- ◆ 近代家父長制 (patriarchy=父の支配)と性差別
 - 特定の白人男性(エリートで健常者、異性愛主義者でシス)のあり方に価値をおくことで女性を従属支配させ、全体として男性支配を正当化すること
- ◆ 差別と特権
 - 差別=本人の努力では解決できないことで社会的不利益を受けること
 - 特権=本人の意志に関係なく、ある集団に属しているだけで自動的に与えられる利益
- ◆ 性差別=性による区別、排除、制限(女性差別撤廃条約第1条)
 - 多様な性を排除することで見えない存在とする

男性の特権ー男性というだけで受けるさまざまな特権

1. 制度的特権

(男性=社会の基準)

男性は女性に不利益を強いることで利益を得ている)

男制、女制(男女二分法によるシステム) 性別秩序

2. 男らしさのコスト

男性は下駄を履かされている、下駄を履くと歩きにくい

3. 男性内差異と不平等(男性内インターセクショナリティ)

男性内階級問題(弱者男性)

◆ 男同士の絆(ホモ・ソーシャルな世界

=女性蔑視と同性愛嫌悪を軸とした男同士の繋がり)の賛美

戦争と「男らしさ」

戦争のPTSD (PTSD日本兵家族の会、寄り添う市民の会)

周司あきら「男性学入門」2025

マジョリティの特権

◆ 無知でいられること

◆ 不公平や特権を意識することを促されることがない

◆ 差別に気づいても黙っているという選択肢が与えられている

◆ 知らないまま過ごせる社会構造の存在

藤岡美恵子『部落フェミニズム』第1章 2025

近代について再考する

- エリート白人男性、健常者、異性愛主義者、シス男性の構築した社会は変わったか？

◆ 近代の特質

競争原理、戦い、征服、目的達成、生産性、効率性
力の論理、国家による暴力支配、

◆ 経済至上主義

◆ 優生思想

◆ 女性と自然を収奪、植民地化

◆ 帝国主義国家の健在、入植植民主義

民主主義国家vs専制国家の対立(家父長制国家)

21世紀

ー「戦争の世紀」から「女たちの21世紀」を描いが・・・

◆ 2001・9・11事件(ダーバン会議の三日後)

アフガニスタン戦争 『2002～2020』から「反テロリズム戦争」

◆ 2003 米英(国連決議なし)イラク攻撃(仏独は反対)

アメリカのイスラエル化(cf.エドワード・サイード死による後任人事
反ユダヤ主義者として拒否)

イラク戦争(侵略戦争) EUはアメリカの核の傘下

↓ 以降IS(イスラミック・ステート)との戦い

◆ Cf、フランス ヨーロッパ大陸最大の軍事大国

核ミサイルを配備した原子力潜水艦6隻を配備

排他的経済水域、米につぎ2位 海外領土を所有

ニューカレドニア ニッケル フランス軍と自衛隊の合同演習

先住民の反乱 入植植民主義中心のEUの歴史的限界

「鵜飼哲」

フェミニズムの視点で考える今後の課題

◆ コロナパンデミックによる教訓

いのちの大切さ

エッセンシャルワークの重要性(女性が9割担う)

新自由主義の限界(市場原理による民営化、大阪府を見よ！)

マイノリティの視点の共有(優生思想、人種主義、多様な性
植民地主義)

◆ 地域主権(ミュニシパリズム→ミニユシパリティ=地方自治体)

ヨーロッパで始まる革新的市民による市の運営

市場よりも市民を優先→共通課題

背景 ECの新自由主義化 右翼ポピュリズムの台頭
左派への失望、弱者に向う人々の怒り



多様性(マイノリティ)の視点から考える フェミニズムの可能性

◆ マイノリティと一緒にいるということ

支援、被支援の相互的關係

人は介助し介助されて生きている

生産性、効率性、成果、結果を求める労働とは異なる

喜びの瞬間がある

協同的な労働関係

時間と紋切り型の内容での介護報酬

◆ 被介助者の立場から

障がい者が「自立生活」することは運動

優生思想についての学び

誰にも保護、管理されないフェミニズムの根幹を自立生活で実践

抵抗の実践 石地かおる『部落フェミニズム』



これからのこと一脱国家、地域主権

ケア労働を中心に
人はひとりでは生きていけない

支援・被支援の相互関係 特権に対する自覚
アンタにはわからへん

コモンズ(社会的に共有され富)を地域でつくりだす

存在自体丸ごと受け入れ繋がること



次世代にバトンを繋ぐ

◆ FIFTY PROJECT 20代のフェミニスト団体

2023統一選挙 仲間29名の内24名当選
被選挙権の引き下げ
政治分野のジェンダーギャップを私たちの世代で解消

◆ #何でないのプロジェクト

当たり前の権利を求めSRHRに関する政策提言

◆ アジア女性資料センター

植民地主義・軍事主義に抗するために

◆ WOMENS MARCH(国際女性デー3・8実行委員会)



アジア太平洋フェミニストフォーラム (APFF)
 軍事主義・植民地主義に抗して
 (2024年9月 於タイ・チェンマイ アジア女性資料センター)



SRHR (性と生殖の健康権利) スタンディング
 2025年9月27日 国際セーフティアボーションデー





ご清聴ありがとうございました。

nikoniko@ric.hi-ho.ne.jp

参考文献

- 井上輝子『日本のフェミニズムー150年の人と思想』有斐閣、2021
- 周司あきら『男性学入門ーそもそも男性って何だけ？』光文社新書、2025
- 岸本聡子『地域主権という希望』大月書店、2022
- 鵜飼哲『ウクライナとパレスティナー2つの戦争をヨーロッパ問題として考える』（テオリア41）ピープルズプラン研究所、2024
- アジア女性資料センター『アジア太平洋フェミニストの声 VOICESー軍事主義・植民地主義に抗してー』2025
- 福田和子・高井ゆとり編集『SRHR』（エトセトラ vol.14）エトセトラ、2025
- 熊本理沙編『部落フェミニズム』エトセトラ、2025
- 上野千鶴子・江原由美子編『挑戦するフェミニズム』有斐閣、2024
- 重信房子『パレスティナ人解放闘争史』作品社、2024
- 船橋邦子『性差別大国・日本』三一書房、2025